様式3

令和 5 年度　学校評価書　（計画段階・実施段階）

学 校 番 号 72

福岡県立大牟田北高等学校

自己評価

学 校 運 営 計 画（4月）

			評　価（総　合）
学校運営方針	＜スクール・ミッション＞　多様なニーズに対して、個別最適な学習環境を提供することで、自己ベストを叶えることができる学校 「目指せ自己ベスト」を校是とした筑後地区唯一の単位制フレックス型の高校として、多様な学習歴、就学条件、進路目標に応じた各自の学びのニーズに合わせた「個別最適な学び」を提供し、これから芽を出す生徒を丁寧に、親身になって、誠実に育てる。 「授業改善」「積極的生徒指導（生徒支援）」「生徒を主語にした教育活動」を通し、スクールミッションの実現を目指す。 生徒が身に付けるべき「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を確実に育成するための取組をカリキュラム・マネジメント（学校教育に関わる様々な取組を、教育課程を中心に据えながら組織的かつ計画的に実施・評価し、教育活動の質の向上に繋げる）の視点で各分掌・各年次（学年）等で組織的に実施することが求められる。 令和５年度から定時制課程の単位制へ完全に移行するが、１１０年の歴史の中で培ってきた、「生徒一人一人の多様な資質や能力を親身に指導して伸ばし、様々な方向への進路実現を果たす」という師弟同行の教育の在り方や、「この地域で人を支え、また、支えられて活躍する人材となり、必ずや地域社会に恩返しをしようという感謝と奉仕の精神にあふれた人材を育成する」本校が目指す学校文化は今後も引き継いでいく。		B
昨年度の成果と課題	年 度 重 点 目 標	具 体 的 目 標	
令和４年度もコロナ禍のため、多くの学校行事が内容変更での実施となった。しかし、限られた条件・人数の中で内容を工夫して実施した全日制最後の体育大会や、定時制が中心となって企画運営を行った文化祭など、生徒は行事を通じて大きく成長することができた。全日制最後の卒業生の進路状況も、生徒の第一希望での進路完全実現は、ほぼ達成する事ができた。 令和５年度は全日制の最後の生徒が卒業し、定時制単独の学校となる。今後の課題として、 ① ＩＣＴ機器や学習管理システム等を有効活用した「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実 ② 組織力の強化や主体的に学び続ける教員育成 ③ 専門機関と連携するなどの積極的生徒指導及び修学支援の推進 ④ 総合的な探究の時間を活用した社会的・職業的自立に向けた必要な資質・能力の育成 ⑤ 地域や保護者と目標共有・連携・協働、本校の特色や強みの積極的発信 があげられる。	「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実を図る。	ア　ＩＣＴ機器やクラウド型学習管理システム活用、個別指導、長期休業中特別講座、ガイダンス機能等を通して「個別最適な学び」の充実を図る。 イ　「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実に向けた授業改善に力を入れる。 ウ　教育活動全般において、Google Workspace for Educationや一人一台端末（chrome book）を有効活用することを通して、指導支援の充実・円滑な生徒とのコミュニケーション・事務処理の効率化を図る。 エ　「観点別評価」を基にした学習評価の充実を図る。	
	組織力の強化・人材育成に力を入れる。	ア　分掌・年次・教科・委員会単位で「報告・連絡・相談」を密にし、組織的・計画的に教育活動を実施する。起案・合議を通して、情報共有や協議を綿密におこなう。実施後の評価を通して、教育活動の質の向上を図る。事跡を確実に残す。 イ　校務運営委員会等の活性化を図る。短期・中期・長期的な視点で教育課題の解決を図る。 ウ　職員研修やＯＪＴによる人材育成を充実する。また、「福岡県教職員育成指標」に基づき、主体的に学び続ける教員の育成を目指す。	
	学校での学びの継続を目指して、積極的生徒指導と修学支援に力を入れる。	ア　修学状況が良好ではない生徒に対しては、早期・組織的な対応に力を入れる。また、専門機関と連携をして、修学支援・教育相談の充実を図る。 イ　道徳教育の視点、公共マナーや集団生活上のルールに則った自律的な生活習慣の育成に努める。（学校生活上でのマナーの徹底指導） ウ　いじめの早期発見・早期対応に努め、「いじめがなく、安全で安心な学校づくり」に力を入れる。 エ　特別活動活性化、ボランティア、行政・地域事業の連携協力への積極的な取組を通し、主体性、社会参加への意欲、非認知能力の育成に努める。	
	社会的・職業的自立に向けて必要な資質・能力を育み、キャリア発達を促すキャリア教育の充実を図る。	ア　特別活動を要とし、教育活動全体を通して、組織的・計画的なキャリア教育を実施する。 イ　総合的な探究の時間（北高自己ベスト探究）を通して、※14つの力の育成に努める。 ウ　「北高キャリア・パスポート」の活用を通して、自己評価の力を高め、主体的に学びに向かう力の育成に努める。	
	「社会に開かれた教育課程」の理念の下、地域、保護者等、関係機関等と目標やビジョンを共有し、連携・協働して生徒を育成する。	ア　「北高サポーター制度」を導入して、地域人材を活用した教育活動及び地域貢献活動を推進する。 イ　各教育機関や地域に対して、単位制［フレックス型］の特色や強み等を積極的に情報発信する。 ウ　学校間連携事業等を通して、他の高等学校や高等教育機関と連携した学びの充実に努める。	

評価項目		具体的目標	具 体 的 方 策	評価(3月)			次年度の主な課題
教務部	教務課	観点別評価の充実を図り、個別最適な授業を展開することで、生徒の自立につながる学力を養成する。	「学び直し」「成績向上のための指導」を実践する。	B	B	A	生徒の実態に応じて、個別最適な授業を展開する。受講指導委員会と連携して令和6年度シラバスの作成が完了しており今後も改訂を続ける。GoogleClassroom等の授業活用が充実してきており、生徒主体の学びが充実するようスタディサプリの活用と並行して、活用を推進する。
			生徒に教科・科目に応じたシラバスを提示し、学習のポイントを説明する。	B			
			学習プラットフォーム等を活用し、授業改善と主体的で協働的な深い学びを推進する。	B			
		統合型校務支援システムを円滑に運用する。	統合型校務支援システムの活用マニュアルを作成し、効果的な活用を促す。	B	A		入力マニュアルを随時作成できている。システムの改変が必要だが、改善は進んでいない現状がある。自分の出席状況を確認している生徒は全体の3割程度に減少しており、生徒自らが確認する習慣を定着させる必要がある。担任の出欠入力、公欠等の処理後の再入力に課題がある。
			電子掲示板の活用を促し、生徒自ら出席管理を行うことができるように努める。	A			
			日々の出欠入力や成績入力に齟齬を生じることがないよう確認作業を行う。	B			
		本校のシステムや教育の特色を発信し、中学校や大学等との連携を強化する。	説明会や授業見学会等の企画・運営を行う。	A	A		説明会参加者は増加。願書請求数は昨年度に比べ50部ほど増加。情報発信はできているが、県HP改変に伴う事前準備を行い、情報公開が滞ることがないように注意する。科目履修生の受け入れについて、申込条件等の整理を行い準備を進めている。
			ホームページ等を通して本校のシステムや教育の特色を発信する。	B			
			高大等連携事業及び科目履修生の基盤を整え、魅力ある学校づくりに努める。	B			
	企画運営課	フレックス型の特色や北高の活動を広範囲に情報発信し、充実した広報活動を行う。	中学校へ年間５回訪問し、本校への理解を深めてもらう。	B	B	B	本校を理解してもらうと同時に中学教諭と情報交換の機会になった。本校への理解が不足している状況もあり来年度以降も訪問を続け理解を促す。特色や行事を地域に理解してもらえるようHP等を利用する。行事や部活動の活躍をマスコミに報告しているが本校独自の発信方法も検討する。
			広報紙・ＳＮＳやＨＰ等を利用し、フレックス型の特色や北高の活動の認知度を上げる。	B			
			マスコミ等へ、本校教育活動を発信する働きかけをしていく。	B			
		保護者等・中学校・小学校や地域との連携を深め、諸行事の円滑な運営を行う。	学校行事等で保護者等と生徒が触れ合う機会をつくる。	A	B		文化祭等でのPTA参加は成功であり、来年度も参加予定である。生徒個々人で中学校の先生に挨拶に行く「リユニオン」は中学校の意向を踏まえた方向で見直しを進める。保護者等教師会広報委員会とも連携しボランティア等の活動を推進する。
			生徒が出身中学校訪問するなど、中学校との情報交換を密に行う。	B			
			生徒育成部と協力して地域活動に積極的に参加・協力する体制をつくる。	C			
		各分掌の連携・調整を図り、「チーム一丸力」を高める。	旧年度の反省を本年度の実施に活かし、早めの準備・起案を行う。	A	A		今後も実施計画を早めに起案し、準備する。今後も連携を密にして、円滑な行事等の運営ができるようにする。各分掌間、各年次での情報を伝えあうよう働きかける必要がある。
			関係部署との打合せを綿密に行う。	B			
			職員間の情報・意見交換が円滑に出来るように工夫する。	B			
	情報管理課	本校の学習プラットフォームの構築・整理し、ＩＣＴを活用した授業改善を推進する。	Google Workspace for Educationや一人一台端末（Chromebook）の設定・管理を行い、授業での円滑な活用を促す。（教務課と連携）	B	B	B	授業Chromebook持参・下校返却が定着し、授業等で生徒が活用する場面が増えた。円滑な活用のために事例等を研修等で提示していく必要がある。スタサプは生徒に活用の差がありHRや授業で活用方法例を示していく。生徒情報の集約を行い、全職員で共通理解ができるようになった。
			スタディサプリの設定・管理を行い、授業での円滑な活用を促す。（進路支援課と連携）	B			
			生徒情報等の年度間の引継ぎが円滑に進むよう、管理マニュアルを作成する。（関係部課と連携）	B			
		校内業務のＩＣＴ化を企画・提案し、業務改善を推進する。	校務支援システム「SchoolEngine」の管理・運用を支援する。（教務課と連携）	B	B		校務支援システム巡回訪問を活用し積極的に操作方法について学習する。学校ポータル等を活用した職員間連絡が増加した。欠席連絡のICT化の利用定着推進が必要で、年度初に欠席連絡方法の確認を行う。共有フォルダ等の整理を年度末に呼びかけ、年度始に使用方法等を確認する。
			職員始礼、欠席連絡のＩＣＴ化を推進する。	A			
			共有フォルダの管理・運用規則を作成し、過去データの有効活用を促す。	B			
		教職員のＩＣＴ活用指導力向上を目指す。	情報に関する研修（ICTを活用した授業改善等）の企画・運営を行う。（研修課と連携）	B	B		研修推進課と連携して研修を実施した。公開授業期間はICT支援員からの授業参観・助言で授業の改善につながった。情報機器管理・運用も充実しているが、故障の事例も増えているため機器操作法を周知する。後期はICT支援員活用が進むよう支援計画を作成した。
			機器・ソフトウェア等の活用が進むよう、マニュアルを準備する。	B			
			ＩＣＴ支援員の活用が進むよう、支援計画を企画・立案する。	B			
生徒育成部	生徒支援課	学校安全の充実を基本とした自他の安全と生命を尊重する態度を育成する。	学校いじめ防止基本方針に基づく取組を行い、いじめの未然防止、早期発見、適切な措置に努める。	B	B	B	各種講演会やアンケートの実施によりいじめの未然防止につながった。いじめ認知事案が発生したが組織的に対応できた。今後はSNSの適切な利用方法等の指導にも力を入れていく。今年度の交通事故件数は0であり、教育の成果が現れていると考えられる。
			交通安全意識の高揚と事故等防止の実践的態度を育成するため、自転車点検や交通安全教室等を実施する。	B			
			諸犯罪に適切に対応できる態度を育成するために、薬物乱用防止教育や暴力団排除教育等を実施する。	A			
		生徒理解を基盤とした積極的生徒指導により自尊感情と規範意識を向上させる。	「我慢する力」「ルールを守る力」「仲間をつくる力」の育成を目指す。	B	B		行事等で思いやりの心や感謝の心を持つ生徒が増えている一方、自己有用感を高める場面の提供に課題が残った。各集会等を通じルールの遵守に関する注意喚起を実施したが一部の生徒に課題が見られた。人間関係に困り感のある生徒等に対しSST等でスキルを身につけさせる。
			公共マナーや集団生活上のルールに則った自律的な生活習慣を育成する。	C			
			他者の良さを認め、気づかせる道徳教育を推進し、学校行事等で明確な目的を持って取り組む態度を育成する。	B			
		「ほめて、鍛えて、生徒の可能性を伸ばす」ことを方針とした積極的体験的活動の活性化を図る。	生徒会活動や学校行事において役割や責任を与え、主体的な態度や思考力を育成する。	C	B		生徒会活動での活発な意見交換により主体的態度の育成に繋がった。今後は早期の準備、役割分担の見直し等を実施する。各行事のアンケート調査は満足度70％以上を達成した。生徒、職員全体の満足度を上げることができるよう行事内容見直しと行事精選を行っていく。
			生徒会行事に対し満足度調査を実施し、活動内容の改善と活性化を図りながら、満足度７０％以上を目指す。	B			
			ボランティア活動等、行政・地域事業の連携協力への積極的な取り組みを通し、主体性、社会参加への意欲、非認知能力の育成に努める。	B			

学校関係者評価

評　価（総　合）	自己評価は Ａ ： 適切である Ｂ ： 概ね適切である Ｃ ： やや適切である Ｄ ： 不適切である
A	

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	ＩＣＴによるシステム化が進んでおり、職員の負担軽減や生徒の情報リテラシーが向上することは長所だと考えられる。しかし、生徒との距離感ができ、コミュニケーションが減少する傾向もある。バランスがとれる活用を目指してほしい。
A	入試要項の配布数が昨年度と比較して増加しているなど、今までの広報活動が成果を上げていると考えられる。卒業生が中学校に挨拶に行く「リユニオン」等、今後も工夫を凝らして広報活動を進め、北高の教育システム（単位制「フレックス型」）の認知を広げていただきたい。
A	一人一台端末によるクラウドサービスの活用など、生徒のリテラシーの向上が進められていると考えられるが、そこには生徒の技術的な個人差が生じているのではないか。今の生徒には教師のＩＣＴに関する知識技能を超える生徒も多い。そういった生徒を教師役として活用していくのもよい方法ではないか。
A	「自分で考えて進める」ことを教えるのは難しい。生徒に考えさせる場の設定が重要。（生徒会活動や文化祭、授業時間割作成で自己決定の場を提供） アンケート等の対応については、少しでも生徒の変化が感じ取られる状況であれば個別相談を行い、必要に応じて組織で対応ができている。

生徒育成部	保健環境課	心身の健康維持・増進に向けて積極的に取り組むことのできる生徒の育成に努める。	健康診断の結果を踏まえ治療勧告等を行い、生徒自ら健康を管理する態度を養う。	A	A	A	保護者へ文書を配布し各自の健康を管理する態度を養った。治療が必要な生徒は経過を観察する。SSW･SC･訪問相談員との連携を図り毎月の教育相談委員会で生徒の実態を把握している。個人情報の取り扱いに十分留意して、今後も注意深く生徒を支援していく。	A	今年度は、訪問相談員が新たに配置され生徒の支援体制がより充実したといえる。専門家（スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、訪問相談員）との連携も教育相談委員会等を活用して推進されており、今後もより充実した支援体制の構築を目指していただきたい。
			年次・教育相談委員会・SC・SSW・訪問相談員等と連携を図り、生徒支援に努める。	A					
			保健室利用状況から、生徒の変化を見据えた早期対応を行う。	A					
		環境美化活動により、学習環境を整える。	毎日の清掃活動の徹底を図り、全生徒・全職員で校内美化に努める。	B	B		年度当初の清掃計画の作成が遅れ、各方面に迷惑をかけてしまった。未だに清掃が徹底できていないところもある。今後も業者による定期的な清掃の継続をお願いしたい。		
			前後期１回のクリーンアップ週間を設定し、強化を図る。	B					
			ＨＲ活動の中で、外掃を含めた近隣の清掃活動に従事する。	C					
		健康的で安全な学校生活を送ることができるように、生徒の学びを支える環境づくりを図る。	危機管理マニュアルの徹底を図り、事故やケガの防止と早期対応に努める。	A	A		大きな事故もなく今後も現状を継続させるよう努める。危機管理マニュアルを再確認し全職員で対応できるようにしていく。生徒情報収集につとめ、カウンセリングや教育相談等、組織的に対応できるようにする。心の健康相談･性の健康相談ともに専門医が来校し実施した。		
			生徒が抱える課題に応じた、組織的な支援に努める。	B					
			健康教育推進事業（心の健康相談・性の健康相談）を年間各１回実施し、効果的に活用する。	A					
キャリア教育部	進路支援課	個に応じたキャリアガイダンスを実施し、第一希望での進路実現を目指す。	年間３回の「進路希望調査」を実施し、自己の進路を考え、担任や保護者との対話の機会をつくる。	B	B	B	紙面で提出･集約が行われる調査は生徒･教員の負担削減のためデジタル化を検討する。キャリア教育では、講演会･進路ワークショップ等を実施し生徒は積極的に参加した。外部リソースを活用して進路意識の向上を図った。年間行事に即した「北高キャリア･パスポート」に改善する。	A	今までの全日型の進路指導と異なり、定時制「フレックス型」としての進路支援が重要になってくる。学校のシステム上同じ時間に生徒を集めることが困難であれば、進路後援会のオンデマンド化などＩＣＴを有効活用していくとよいのではないか。
			進路講演会や進路ガイダンスを実施し、外部リソースの活用・連携を通して、進路意識の向上を図る。	A					
			「北高キャリア・パスポート」を活用し、生徒が自己実現に向けた目標設定を行い、行事や総探学習を通して振り返る機会をつくる。	B					
		進路実現のための学びの保障ができるよう、進路指導体制を充実させる。	「北高自己ベスト探究」を通して、自己の在り方生き方を考えながら、４つの力の育成を図る。	B	B		「北高自己ベスト探究」を各年次で最適なものに工夫した。探究活動の振返りを行い3月の発表会の準備を行いたい。より生徒実態に応じた「北高自己ベスト探究」を検討する。受験率が低い理由を分析して来年度の模試計画を作成すると同時に進路意識を高める指導の機会を確保する。		
			到達度テストや模擬試験の実施方法を工夫し、受験率９割以上を確保し、生徒一人ひとりの進路指導に反映させる。	C					
			教務部と連携してスタディサプリを活用し、学びに向かう力の育成を図る。	B					
		生徒・保護者等・地域に対する適切な情報発信を行う。	生徒や保護者等に有益な「進路の手引き」を作成する。	A	A		計画の通りに資料作成ができた。配布する進路資料選定と配布機会を見直し、卒業予定生にはGoogleClassroomで上級学校の最新情報を提供するなどの方法も採用した。模擬試験結果を北高キャリア･パスポートを用いて振返りを行い冬季に面談の機会を確保したい。		
			時宜に応じた進路情報誌等の依頼・提供を行う。	A					
			到達度テストや模擬試験の振り返りを「北高キャリア・パスポート」で行い面談時に活用する。	B					
	研修推進課	ICT支援員との連携を密にし、ICTを有効活用した「個別最適な学び」や「協働的な学び」の充実を図る授業改善に寄与する。	ICT支援員からの月1回程度の定期的な研修動画の配信や資料の提供を行う。	B	B	B	ICT支援員の研修資料を提供することができた。テーマ設定が次年度の課題である。研究授業テーマを「一人一台端末活用」としたことで活用情報提供及び共有ができた。また、スタディサプリの活用についても職員研修で実施することで情報提供することができた。	A	ＩＣＴ化が進む中、職員の知識・技能を高める研修を多く実施できていることは評価できる。また、通級に関する研修も行われており、生徒や学校の実態に応じた研修も実施されている。今後も特別支援に関する研修を充実させるなど、本校の職員だからこそ身に付けるべき知識・技能に焦点を当てて計画を立ててほしい。
			一人一台端末やスタディサプリの有効活用についての情報提供や共有を行う。	B					
			公開授業月間を充実させるための方策を考え、結果を共有することでよりよい授業改善に繋げる。	B					
		新しい研修の在り方を模索しながら、研修の充実やOJTなどを有効活用した人材育成を目指す。	全体研修のみならず、テーマを設定したミニ研修会やOJTを実施しながら教員力の向上に努める。	C	B		ミニ研修会や研修ルーム創設の検討は行ったが実践にはいたらなかった。職員研修に協議･演習を導入することで先生の連携向上の一助になるようにした。研修後、各先生が意見交換･回覧等を行うことで、興味･関心のあるテーマの知識や能力の向上に寄与できた。		
			公開授業月間を年2回実施に向けて検討を行い、研究授業後の合評会の実施及び充実を図る。	B					
			参加した研修会の資料や情報を共有し、多くの職員の資質・能力の向上を目指す。	B					
		本校の実情に特化した研修や情報提供に努め、積極的な生徒指導と修学支援をバックアップする。	SC・SSW・訪問相談員や医療機関等と連携した本校の実情をリアルタイムに捉えた研修を実施する。	A	B		SSWによる職員研修や通級指導について職員研修を行い、本校の実情を踏まえた研修を実施した。総合的な探究の時間等の在り方に関する研修を実施できるよう計画を立てたい。生徒理解の研修を実際の生徒指導に活かせるように生徒情報交換会などの形態を模索する。		
			生徒の実情に即した総合的な探究の時間の計画や特別活動の在り方に関して検討し、提案していく。	C					
			全職員による生徒情報交換会の新設に向けての検討をし、きめ細かな生徒指導に寄与する。	B					
学年部	新入生年次	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を目指す。	スタディサプリにおける宿題配信を、すべての先生が月に１回以上実施する。	C	B	B	各教科でのスタディサプリ宿題配信は全教職員が実施できていない。今後ICT活用能力の向上のための声かけを行う。HRではグループワークを通じて多くの生徒が自分の意見を述べる力を身に付けている。HRでのGoogle Workspaceの活用を継続して実施した。	A	新入生、在校生、卒業予定生年次の縦のつながりが重要。（卒業予定生からの講話、修学旅行、新入生オリエンテーション、歓迎行事等を行っており、今後は総合的な探究の時間でも縦のつながりを取り入れる方針）
			ペアワーク等の協働的な活動を、すべての授業で月に１回以上実施する。	B					
			生徒への連絡等のために、すべての先生がGoogle Workspaceを月に１回以上活用する。	B					
		積極的生徒指導を推進する。	HRと総合的な探究の時間に、教室に入ることができない生徒への支援も同時に行う。	B	B		HRへの参加率が前期より低下しており引き続きSCやSSW･訪問相談員を活用するとともに、特別活動補講を工夫しHRへの参加率向上につなげる。学校生活上の注意点など適宜HRの時間で伝えており、今後はコミュニケーション能力向上に努めたい。		
			副担任の協力も得ながら、特別活動の補充活動を月に１回以上行う。	B					
			集団生活上のルールや他者との適切なコミュニケーションについて、適宜助言する。	B					
		社会的・職業的自立に向けて必要な資質・能力の育成を目指す。	組織的・計画的なキャリア教育の実施のために、年次会議ごとに総探計画の情報共有を行う。	B	A		総探計画は年次会議で情報共有ができた。生徒の学力に応じ使用教材の進め方等を適宜調整していく。キャリア教育関連行事は適宜記録を残すよう指導している。苦手な生徒も多いためグループ内での情報共有の仕方なども指導していく。生徒から自主的に挨拶をする機会も多くなった。		
			進路講演会や探究活動において、記録を残していくことの重要性について適宜説明する。	A					
			校内での挨拶を徹底する。	B					
	在校生年次	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を目指す。	スタディサプリの学習データ（生徒）を月に１回以上確認し、生徒に対して適宜助言する。	C	B	B	スタディサプリは教師の取組の工夫や活動指導力の向上、学校または年次単位で生徒に目標を設定させる等の方策の検討する。徐々に生徒が自分達で話し合うことができるようになり、特に文化祭準備を通して生徒間に協働的な活動が見られた。	A	大人になると個人で取り組めることは少なくなり、人と連携して物事に取り組むことはも将来的に大切になる。そういったチームワークを身に着けることが必要ではないか。（在校生年次の総合的な探究の時間でグループで課題研究を実施）
			HRと総合的な探究の時間において、グループワーク等の協働的な活動を実施する。	B					
			生徒への連絡等のために、担任と副担任がGoogle Workspaceを活用する。	A					
		積極的生徒指導を推進する。	特別活動での生徒の役割分担について、生徒全員が等しく合意形成に関わるよう助言する。	B	B		文化祭準備にほとんどの生徒が携わることができ、活動に対する助言ができた。特別活動への出席率を上げられるよう、声かけや等の工夫を行う。Google Classroom配信･要約提出等の方法も検討する。HRで定期的に学校生活における最低限守るべきルールを助言した。		
			副担任の協力も得ながら、特別活動の補充活動を月に１回以上行う。	C					
			集団生活上のルールや他者との適切なコミュニケーションについて、適宜助言する。	B					
		地域や保護者等、関係機関との連携を推進する。	地域人材を活用した教育活動を、半期に１回以上実施する。	C	B		各授業での招聘･学校設定科目「地域社会」の設定等、新しい取組を検討する。生徒の各活動参加を促すため、活動詳細内容の伝達･特別活動補充の調整を行いながら声掛けを行うとともに生徒参加状況の情報共有を進める。		
			学校間連携事業の活動内容を、適宜情報発信する。	B					
			ボランティアや実行委員等への参加人数をのべ２０人以上にするために、適宜声かけを行う。	B					
	卒業予定生年次	自己理解・自己管理能力を高めさせる。	積極的生徒指導を行い、基本的生活習慣を身に付けられるよう適宜指導する。	B	B	A	進路決定後の生活状況も落ち着いており、良い雰囲気で学校生活を送っている。現状5名の皆勤者数である。面接練習等の進路指導に終始し、キャリアパスポート活用では課題が残ったが、授業内外における面談等を通して生徒理解につなげることができた。	A	下級生の良い見本（学習、部活動、資格取得等）となっているとの話も聞く。文化祭でも協力し合って素晴らしい展示をされていたなど、教育の成果が表れている。進路決定が順調に進められたのは昨年の全日制の先輩の様子を見ることができたことも要因。フレックス型で先輩の進路決定の動きをどう伝えるのかが課題。（授業での異学年交流が良い機会）
			年次における１ヵ年皆勤数１０名を目指す。	B					
			キャリア・パスポートやマイノートを活用しながら、個別面談を必要に応じて実施する。	C					
		社会形成能力を身に付けさせる。	生徒主体の行事運営を心がけ、リーダー及びコミュニケーションスキルの育成を図る。	A	A		各種行事では生徒の活躍する姿を見ることができ、生徒の心の成長が見られたよう。各行事等に参加する姿勢も落ち着いていた。現在は高校生活の振り返り、後輩の北高生へのメッセージ等を含めてプレゼン作成を行っている。		
			ボランティア活動に積極的に参加する生徒を育成する。	B					
			進路決定後の学校生活を充実させるため、具体的な目標と計画を立てさせる。	B					
		キャリアプランニング能力を身に付けさせる。	詳細な情報収集や綿密な面談を行い、全ての生徒が納得して希望進路を決定できるようにする。	A	A		夏季休業前にほとんどの生徒が希望進路を決定、就職･受験対策やオープンキャンパス等への参加について準備をすることができた。個別面談や保護者連絡を通し納得のいく進路選択を進められた。夏季休業中の特別講座や冬季休業中の個別指導を実施した。		
			長期休業中の学習活動を充実させる（夏期講座等）。	A					
			進路決定後も資格取得に挑戦させ、上位級を取得して卒業させる。	B					
事務部		現状に沿った環境整備、充実化に努める。	フレックス型完全移行に則した柔軟な環境整備を行う。	B	B	A	整理整頓を徹底し現状に即した室改変等を推進した。全日制閉課程に伴う生徒職員清掃割の割当空白エリアにおいて、現業職員が行う状況が生じた。武道場等不要物品等仕分を依頼し、産廃処理を図ったが実現至らず。	A	現在、北側中庭の緑化事業が進められており、生徒が落ち着いて学習を行うことができる環境づくりができている。
			不用品を積極的に処分し、整理整頓を徹底する。	B					
		効率的効果的な予算執行及び管理を行う。	フレックス型完全移行に沿った柔軟な予算執行を行う。	A	A		限定的予算内での施設修繕改修、教科物品取得等、定時制課程完全移行に即した予算執行を遂行中。一時置場の一元化、出納簿の整理等により、現金取扱厳格化は飛躍的に解消された。		
			止むを得ず現金を取り扱う際の保管記帳等の厳格化を推進する。	A					
		外部対応の見直しを行う。	丁寧な対応の中に、職員負担の軽減化を図る。	A	A		来客、電話対応等の工夫簡略化が実現している。生徒保護者外部来客等事務室入室を原則回避する事により、個人情報保護と職員負担軽減による業務集中化が実現している		
			個人情報保護のため、外部対応方法の見直しを図る。	A					

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

- 「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実に向けた授業改善を推進するとともに、教職員の「観点別評価」「ガイダンス機能」に関する資質向上を目指す。
- 対話的・協働的職員研修の充実による教職員の同僚性向上、分掌・年次・教科単位での組織的・計画的な教育活動強化と個や学校の課題に応じた研修の受講等による人材育成を目指す。
- 問題の早期発見・早期対応に努め、専門機関等（ＳＣ、ＳＳＷ、医療機関、通級指導等）と連携するなど、積極的生徒指導及び修学支援を推進する。
- 「人間形成関係・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」の育成に目指した組織的・計画的なキャリア教育の実践を推進する。（ＳＳＴの導入、総合的な探究の時間の活用）
- 「社会に開かれた教育課程」の理念の下、地域、保護者等、関係機関等と連携・協働した教育の実践を推進する。

評価項目以外のものに関する意見

公民館での小学生学習指導やお年寄り対象のスマートフォン教室、ｅスポーツ講座等のボランティア活動にも参加していただいた。小学生に優しく寄り添う姿などとても印象に残っている。生徒の成長にもつながっている。今後も連携を深めていきたい。